

坂出・綾歌支部 活動報告

1 研究主題

学びを人生や社会に生かそうとする生徒の育成 —主体的・対話的で深い学びを支えるメディア教育の推進—

2 はじめに

学習指導要領の基本理念である「生きる力」を育むという目標のもと、学ぼうとする意欲や思考力・判断力・表現力等を育むためには、基礎的・基本的な知識や技能に加え、学び合い活動を取り入れる等の授業改善を図り、学びの質を高めていくことが不可欠である。とくに、多様な情報の中から必要な情報を適切に選択・活用し、主体的に自分の考えを表現・発信する力を育てることが、学校教育に求められている。そのために、メディア教育の担う役割は重大であり、加速化している高度情報社会において、ますます大きくなっている。

そこで、本部会では、放送教材やＩＣＴ機器を効果的に活用することで、生徒に学習課題を視覚的・聴覚的に捉えさせたり、課題の発見をさせたりすることができ、主体的・対話的で深い学びにつなげると考え、実践研究を行った。

3 研究計画

(1) 研究の概要

研究授業および研究討議をもとに主題に迫るとともに、各校での実践事例を持ち寄り、情報交換し、各校の教育実践に活用す

る。

(2) 研究の過程

① 4月17日（坂出市立白峰中学校）

研究組織及び研究主題の決定、研究の進め方についての共通理解

② 10月29日（宇多津町立宇多津中学校）

授業参観（体育）、研究討議、各中学校での実践事例についての情報交換、次年度に向けて

4 研究内容

(1) 研究授業

① 第3学年 保健体育

題材 陸上競技 走り高跳び

授業者 宇多津町立宇多津中学校

牛田貴大

② 本時の目標

ア リズミカルな助走から力強く踏み切り、はさみ跳びでより高いバーを越えたり、競争したりできる。

イ 自分や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自分の考えを他者に伝えることができる。

③ 本時の工夫点

ア 映像遅延アプリを使用し、跳躍後、すぐに自分の試技を確認できるようにする。

イ タブレットを活用し、より詳しく動きを確認したい時にスロー再生

することで自己の課題発見につなげる。

④ 学習指導過程

ア 導入

映像遅延アプリを使用した、15秒遅れで自動再生される映像を見ながら、自分の試技を4つの技能（助走リズム、踏み切り、振り上げ足、抜き足）に着目して修正する。

イ 展開

グループごとにタブレットを使用して試技を撮影し、跳躍している画像を見ながら、自己ベストをめざせるように、4つの技能から一番気を付ける技能について考える。

ウ まとめ

自己ベストをめざして、一人1回の試技を行い、より高く跳ぶために改善するポイントを考える。

⑤ 討議内容

映像遅延アプリが入ったタブレットで撮影した映像を見せることによって、生徒はすぐに自分の跳躍の課題を確認することができていた。タブレットを使ってスロー再生はできなかったが、自分たちで意見を出し合いながら高く跳ぼうと工夫していた。今回、自己ベストを出す生徒は少なかったが、今後このような取組が生徒の技能の向上と課題の発見と解決につながるのではないかと考える。

(2) 各校の取組

- ・ オンラインでの授業や朝の会で

Z o o m、T e a m s を活用

- ・ 欠席生徒へのリモート授業のため Z o o m を活用
- ・ 職員間の情報共有のためのプラットフォームとして T e a m s を活用
- ・ 理科の実験で顕微鏡の映像を記録してアーカイブをつくるためにタブレットを活用
- ・ 資料を映し出し、分かりやすい説明をするために電子黒板を活用
- ・ 新聞に触れる機会を増やすために N I E タイムの活用
- ・ 道徳で事前に内容を確認したYouTube動画の活用

5 研究課題

昨年度からタブレット端末の活用を中心に研究を進めており、生徒が自らの課題の発見や解決のためにタブレットを用い、最高のパフォーマンスができることを目標に授業を展開してきた。今年度もタブレット端末を用いてより効果的に活用できるよう工夫された授業実践提案がなされた。今後もさらにこのような授業実践事例を積み上げていきたい。

来年度からはG I G Aスクール構想により、生徒一人ひとりにタブレットが配布され、教員のリテラシー、個人情報漏えい防止、ギガスクールへのハード面の有効活用などメディア教育部会が中心となって取り組む研究課題が増えそうである。今後もさらに各校の実践事例を中心に情報交換を行い、課題解決に取り組んでいきたい。